

山桜の里 戸赤

やまざくら祭り、中止。

- 平成 23 年度やまざくら祭りは、東日本大震災で起きた福島第 1 原子力発電所事故収束の見通しが不透明であり来訪客が見込めないと判断し、中止としました。
- 広場にテント 1 張は設けますので各自利用してください。(シールや精算方は原則例年通りです。)
- 木地工房は平常通り営業します。
- 炭焼き窯利用の申し込みは、早めをお願いします。申し込み先・電話 0241 - 67 - 3136☎



開口部補修前



作業しやすいように拡張

炭窯の燃材と
保つておいた山
林を伐採するこ
とができまし
た。材積が多い
ため約半分は次
回分として残し
ました。



作業後利用度アップへの打合わせ

炭窯補修と燃材確保

炭窯の補修と燃材の確保により炭焼き体験の条件は一段と整いました。5年前に作った窯は内壁が剥がれるなど老朽化が進み維持管理に不安がありました。今回の開口部拡張とあわせ内外壁の補修により、この先しばらくは現役として活躍できそうです。



伐採作業にヘリコプターを奮闘

福島、茨城、栃木 3 県が共同で実施している交流促進事業の成果が目に見える形で表れました。林業体験用として森林浴など保健保養用として利用していた山林を抜き切りし、炭焼き用の燃材としても活用することになりました。



適切なサイズに燃材確保

炭窯使用料(案)
1 回当たり 7,000 円(現地燃材を利用した場合)
積算根拠: 窯代 1 回 2,000 円・燃材代 5,000 円
製品販売価格(見込み) 10 kg × 5 袋 × 単価 2,000 円 = 10,000 円
使用者利益 10,000 - 7,000 = 3,000 円



炭窯近くの馬頭観音

【木地の学習No.6】『高森の歴史』という小冊子を著わした高森出身の相原寅記氏によれば、「天正 18 年に会津に移住し寛永 14 年まで 47 年間慶山で木地挽きをした」というが、文書の出典は不明である。『町中之由来寛文 6(1666)年に若松城下の職人の書き上げがあるがその中に木地師はいない。すでにこの頃にはすべて山間部へ移動してしまったのであろう。再び若松城下へ木地師が戻ってくるのは、江戸時代の終わり頃だろう。『若松風俗根文化 4 年』にはまだ木地師が見えない。『君ヶ畑氏子狩根文政 10 年』には 2 名の木地師が、安政 4 年には 3 名の木地師がいた。また、『嘉永安政年間記憶覚書』にも記載されている。彼らは町木地師として山間部の木地師から送られてくるろくろ挽きした椀を仕上挽きしたと思われる。

(奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづく>

「花まめチョコレート」・「下郷マドレーヌ」

新商品
発表

花
豆
栽培
講習会



マドレーヌは1つ売りのときは80円かななどと新商品への感想と、ことしの作付が話題となった講習会(14名参加)

福島県地域づくり推進事業
戸赤
自然も絵になる村
人もURL

震災と原発事故の影響で補助事業の継続は不透明ですが、息の長い取り組みで計画を実行していききたいものです。

三月三十一日平成二十二年度の新商品が納品され、パッケージと共に食味、商品名、量目、売値、見栄え、など試食しながら意見交換をしました。

丸い箱の「花まめチョコレート」は花豆をチョコレートで包みアーモンド粉をまぶした五粒入り。「下郷マドレーヌ」は花豆三粒をケーギに沈ませ三個人入り一箱。売値はどちらも三五〇円としました。

商品開発にあたった松崎さんと積田さんは、喫茶コーナーで生産者の顔と農作業の過程を写真で紹介し、戸赤の川・人・畑を見てもらえるような売り方を提案しました。季節限定で寒い時期はこれを出し、夏場用にはまた別な商品を考えることにしました。品質保存材を別袋とし賞味期限は二週間。



取り扱い店は下郷限定、季節限定、1日20~30個を長寿命で売れる特産品にしていきたい

『下郷マドレーヌ』、古風で耳触り良く聞こえる商品名(左)

上品に仕上がった『花まめチョコレート』(下)



山桜学校利用者数

	会議		泊		イベント		見学		その他		計		写真
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
⑱	4	49	25	191	4	341	8	196	20	238	61	1,015	520
⑲	2	37	72	181	2	81	2	47	4	29	82	375	459
⑳	3	50	37	256	2	163	6	143	2	15	50	519	295
㉑	2	38	31	142	1	45	2	30	0	0	36	255	290
㉒	3	65	17	208	0	0	1	11	3	66	24	350	215

木土工房入込客数 (木地挽きにかかわらずお茶飲みなど訪れた方すべての数)

	3月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
⑱	143	385	792	233	262	131	182	244	156	134	102	121	2,885
⑲	145	332	461	303	282	202	229	318	123	76	91	62	2,624
⑳	104	390	702	319	201	167	249	647	338	109	53	96	3,375
㉑	104	285	1,167	1,450	177	166	147	223	93	34	16	27	2,333

安全・安心な農産物の販売のために 農薬の適正使用について【No.5】 (南会津農林事務所農業振興普及部資料から)

残留農薬検査 国や都道府県では、流通・販売される食品等の安全性を確認するため、監視指導計画により年間を通して残留農薬検査を実施しています。また、企業でも自社製品の安全性を確認するため企業内部で残留農薬検査を行っています。現在の分析機械は200~400種類もの農薬成分を1週間で分析できる能力があります。1検体あたり5~15万円の費用がかかります。(つづく)